

平成 25 年度 京都市思春期世代の生活と意識調査について(喫煙状況)

1. 調査概要

○ 調査の目的

「京都市未来子どもプラン」の次期プラン(平成 27 年度～)に盛り込む新たな母子保健計画を策定するための基礎資料として活用するために調査を行った。

○ 調査期間 : 平成 25 年 8 月 15 日から同年 9 月 4 日まで

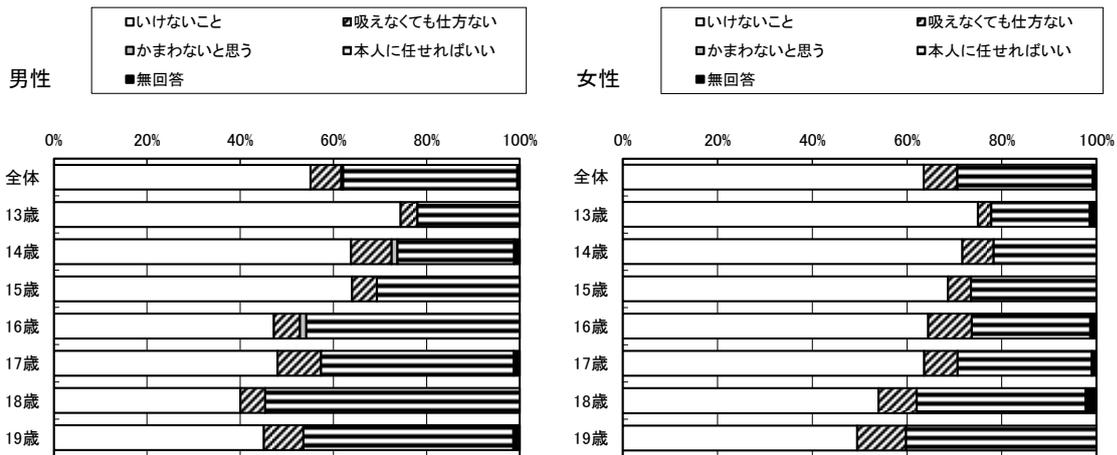
○ 調査対象者 : 平成 25 年 8 月 1 日現在, 13 歳以上 19 歳以下の市民のうち住民基本台帳及び外国人登録者から無作為抽出した 5,000 人

○ 調査方法 : 郵送配布・郵送回収(無記名回答)

2. 調査内容

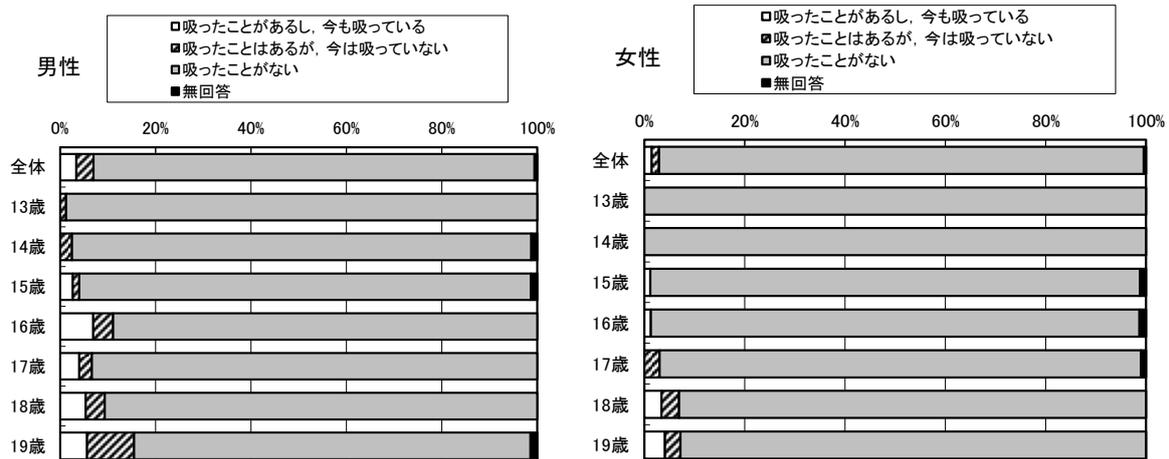
(1) 未成年者がたばこを吸うことについてどう思うか

- ・「法律で禁止されているからいけない」は, 男性で 55.1%, 女性 63.5%であり, 平成 20 年調査の男性 47.2%, 女性 52.5%と比較して, 増加している。
- ・「法律で禁止されているからいけない」は, 年齢が高くなるにつれて減少し, 「本人の考えに任せればよい」は, 年齢が高くなるにつれて増加している。



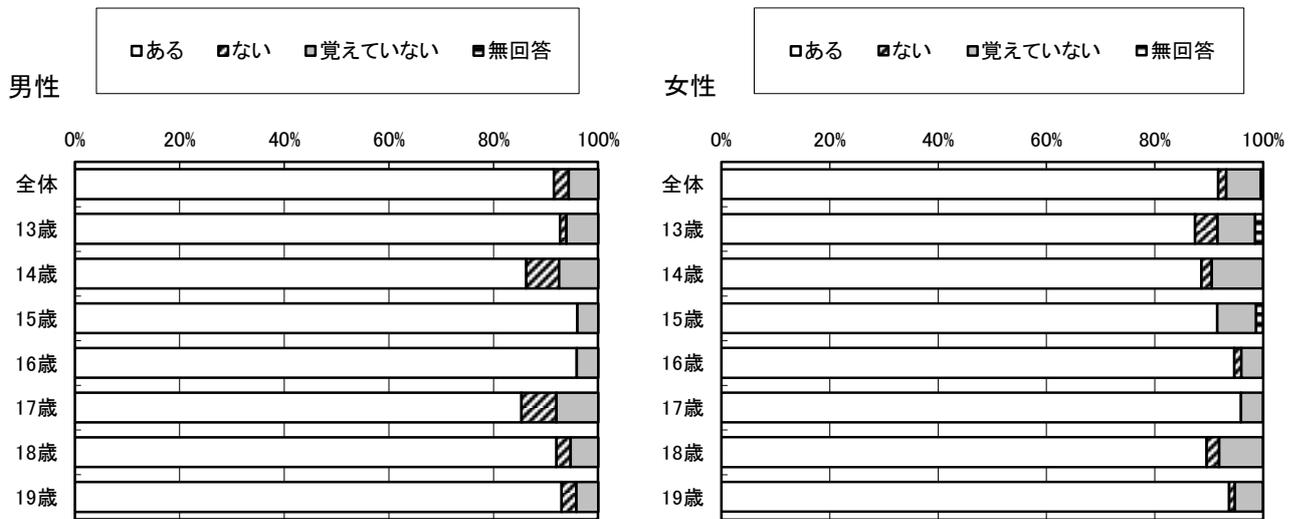
(2) たばこを吸った経験

- ・喫煙経験がある男性は 7%で, 女性は 3%であり, 平成 20 年調査の男性 12.5%, 女性 7.6%と比較して減少している。
- ・男女共に, 年齢が上がるにつれて経験率が増加する。



(3) 喫煙の及ぼす離京についての学習経験

- ・男女とも約90%が学習している。ただし、喫煙経験者は「学習していない」もしくは「覚えていない」者が多い傾向にある。



(4) 受動喫煙が健康に及ぼす影響

- ・受動喫煙の影響を知っている者は約93%であるが、知らない者は「学習していない」もしくは「覚えていない」が多い傾向にある。

